

日本地球惑星科学連合2014年大会

U-08 連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？

# 東日本大震災に対する日本地理学会の取り組みと 学協会の災害対応のあり方

公益社団法人 日本地理学会  
災害対応委員会 委員長

熊木 洋太

# 地理学の特徴と自然災害研究

- 地理学は場所・地域に着目する
- 場所・地域の属性は自然と人間社会の両面
- 地理学は自然と人間の相互作用に強い関心を抱く
- 自然災害は自然現象がある場所において人間社会に災禍を及ぼしたもの → 地理学の重要な研究分野

# 日本地理学会 災害対応委員会

- 阪神・淡路大震災(1995)がきっかけで、学会として災害に対応する組織の必要性が意識され、2001年設置
- 当初想定されていた活動
  - 緊急的・継続的な災害調査の実施
  - 会員による災害研究の支援
  - 研究成果の社会還元
- 実際に行ってきたこと
  - ×(学会の調査団)
  - 腕章・シールの作成・配付
  - 地方拠点委員
  - 災害対応グループMLによる情報交換
  - 専用HPによる情報提供(次ページ)
  - 公開シンポジウム  
(2003~2013年度で16回)



## 災害緊急速報

[2013年10月に発生した平成25年台風26号による伊豆大島での災害について](#)

[2013年7月に阿武川（山口県）で発生した水害のレポート（佐藤・宇根）](#)

[2013年4月に浜松市で発生した斜面崩壊のレポート（佐藤・宇根）](#)

[2012年7月発生の九州北部豪雨について](#)

[2011年9月の台風12号について](#)

[「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部」を設置しました](#)

[2011年2月発生のニュージーランド南島・クライストチャーチ付近の地震について](#)

[2011年 新燃岳噴火について](#)

[2009年7月発生の中国・九州北部豪雨について](#)

[2008年岩手・宮城内陸地震について（関連リンク集）](#)

[2008年ミャンマーサイクロン災害、および四川大地震について（関連リンク集）](#)

[2005年10月8日発生のパキスタン北部地震について](#)

[台風14号による大淀川水系の浸水被害について（速報）](#)

[白馬岳 大雪渓麓平 落石事故について](#)

[2005.3.20発生の福岡県西方沖地震について](#)

[スマトラ沖津波災害のタイにおける緊急予察調査報告](#)

[日本地理学会災害対応委員会新潟県中越地震HP  
（新潟県中越地震・現地対応本部）](#)

[2004年日本地理学会秋季大会（2004/9/24-28 於：広島大学）  
災害緊急報告ポスターセッション発表要旨](#)

[2004年10月23日新潟県中越地震の活断層調査報告  
（名古屋大学大学院環境学研究科附属 地震火山・防災研究センターHP内へのリンク）](#)

[2004.9.29発生の三重県宮川村土石流災害緊急予察調査報告](#)



日本地理学会災害対応委員会主催  
ハザードマップシンポジウム第2弾

日時：2004年3月27日 13:00～17:00  
会場：東京経済大学 3号館 C101教室  
(日本地理学会春季大会 第6会場)  
住所：〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-34  
(JR中央線・西武線「国分寺駅」より徒歩13分)  
参加費：無料

洪水や火山災害など各種のハザードマップが急速に整備される中、地震災害を想定したハザードマップの整備も始まっている。本シンポジウムは、地震の想定方法、活断層変位への備え、被害軽減のための土地利用等のあり方などを検討し、ハザードマップを地震被害の軽減に役立てるために、いかに地理学的視点を含蓄的に反映させるべきかについて考え、地理学からの提言を取り纏めることを目的に、公開シンポジウムとして実施する。

プログラム

開会の挨拶と趣意説明：辻藤元彦 13:00～13:10

第一部：最新研究の成果を被害軽減に活かす

座長：岡田篤正(13:10～14:35)  
中田博史(地質学総合研究センター)  
【基調講演】最新研究と地震防災—現状と問題—  
鈴木康弘(愛知独立大)  
—最新の地震動予測地図と活断層地震防災  
中田 博(筑波大)・藤元 崇(国土地理院)  
—高精度活断層位置情報の特徴と活用  
中田 博(国土地理院)  
—土地条件を活かした地震被害軽減のためのハザードマップ整備

第二部：住民にとって何が求められるか？

座長：中林一樹 14:35～15:50  
坂本清峰(防災科学技術研究所)  
—ハザードマップの活用とリスクコミュニケーション  
村山良之(東北大)  
—地域にとって必要なハザード情報—ハザードマップ  
—2003年宮城県北部地震からの教訓—  
村山良之(国土地理院)  
—松本市の防災まちづくり  
山口 繁(日本放送協会)  
—ハザードマップにリアリティを持たせるためには  
—メディアからみた課題—

第三部：総合討論：提言の取り纏めに向けて

座長：中林一樹 15:50～16:30  
【コメント】藤元崇(国土地理院)  
藤元崇(文芸科学)  
辻藤元彦(筑波大)

まとめ：辻藤元彦 16:30～17:00

オーガナイザー

中林一樹(東京国立大学)・岡田篤正(京都大学)・村山良之(東北大学)  
鈴木康弘(愛知独立大)・中田 博(国土地理院)・辻藤元彦(日本大学)

連絡先：y.kozaki@geac.tyohoku.ac.jp(中林)、ame@geon.jp(中田)

地震被害軽減に役立つ  
ハザードマップのあり方

写真提供：国際地震学  
(1997年 宮城沖地震)

日本地理学会災害対応委員会 公開シンポジウム

地球温暖化時代の災害を考える

—世界の6つの現場から—

【主催】 日本地理学会災害対応委員会  
【日時】 2008年3月29日 13:00～16:30  
【場所】 獨協大学(草加市学園町1-1)  
日本地理学会春季学術大会第一会場  
天野貞祐記念館 A-307 教室(大講堂)

- ・ 趣意説明 ……日本地理学会災害対応委員会・中村幸弘(筑波大)
- ・ 2005年ハリケーン・カトリーナとニューオリンズ大水害 ……佐藤裕子(防災科学技術研究所)
- ・ バングラデシュにおける洪水とサイクロン災害 ……松本洋(首都大学東京・JAWSTEC/IDP/GO)・清田純久(京都大・院)・村橋一(京都大)
- ・ モルディブ共和国のサンゴ礁地盤崩壊と環礁立国の災害脆弱性 ……菅 浩伸(岡山大)
- ・ 地球温暖化による南米バタゴニアにおける氷河の融解とその影響をめぐる最近の話題 ……藤本賢人(金沢大)
- ・ モンゴルにおける人—草原—森林—永久凍土の共生 ……石川 守(北大・地球環境科学研究所)
- ・ 中央アジアの沙漠化 ……辻藤元彦(日本大)
- ・ 総合討論

どなたでもご参加いただけます

写真：サンタフェル氷河  
近年顕著な後退が見られる  
撮影：菅本賢人

お問い合わせ  
日本地理学会事務局 TEL 03-3815-1012 FAX 03-3815-1072 e-mail: office@ajg.or.jp



一般公開シンポジウム 全国・日本地理学会災害対応委員会

# 首都圏直下の地震を正しく恐れ、みんなで備えよう ～埼玉の地震災害とその対策を考える～

日時：2006年 3月27日(月) 13:30 - 17:00 開場13:00  
会場：さいたま商工会議所会館2階 第1・2ホール  
(さいたま市浦和区高砂3-17-15)

**入場無料・事前予約なし** (どなたでも参加できます)

主催：日本地理学会、埼玉県、埼玉大学  
後援：国土交通省国土地理院、文部科学省、内閣府  
オーガナイザー：遠藤邦彦(日本大学)、中林一樹(首都大学東京)

## プログラム

- |   |                   |
|---|-------------------|
| 13:30-13:35 埼玉県知事挨拶                       |                   |
| 13:35-13:40 趣旨説明(日本地理学会災害対応委員会 遠藤委員長)     |                   |
| 13:40-16:00 基調報告                          |                   |
| 13:40-14:00 切迫する首都圏直下地震災害とは—その被害想定から—     | 中林一樹(首都大学東京)      |
| 14:00-14:20 埼玉県の地震災害と被害想定                 | 倉田史雄(埼玉大学)        |
| 14:20-14:40 埼玉県の活断層と地震災害—飯沼川断層の活動性評価の必要性— | 遠藤久久(東洋大学)        |
| (休憩 14:40-14:50)                          |                   |
| 14:50-15:10 地震による斜面災害の実態について              | 風間孝彦(埼玉大学)        |
| 15:10-15:30 埼玉県の地震対策の取り組み                 | 古野洋一(埼玉)          |
| 15:30-15:50 地域防災の取り組み—名古屋の事例—             | 鈴木康弘(名古屋大学)       |
| (休憩 15:50-16:00)                          |                   |
| 16:00-17:00 総合討論                          |                   |
| 16:00-16:10 コメント1 地域の安心安全を確保するための市民活動     | 清水 寛              |
| —消防団地域安心発生ステーション整備モデル事業の実績報告—             | (水谷東小学校区白土助災会連絡会) |
| 16:10-16:20 コメント2 地震防災のための地区情報            | 宇野 寛(国土地理院)       |
| 16:20-17:00 討論                            |                   |

問い合わせ先

日本地理学会(事務局)  
Fax:03-3815-1672 E-mail: jgsg@geo.s.u-tokyo.ac.jp  
埼玉県危機管理防災部危機管理課(国民保護・地域防災計画担当)  
Fax:048-830-4790 E-mail: sa9115-03@pref.saitama.lg.jp  
小西平明(埼玉大学地質科学研究センター)  
Fax:048-858-3538 E-mail: iapohaki@eria.saitama-u.ac.jp

主催：国土交通省・文部科学省・内閣府  
後援：国土地理院  
協賛：国土院  
協賛：国土院  
協賛：国土院

# シンポジウム いま改めて 二つの大震災から学ぶ

—阪神淡路大震災・東日本大震災と地理学・変動地形学—

阪神大震災と東日本大震災は、ともに極めて稀な大災害であり、共通点も多い。本当に予断できない「想定外」だったのか？ 今後、稀な大災害への備えはどうあるべきか？ 原因と活断層の関係にも注目が集まっている。第一線で、活断層調査や地震予測に取り組む地理学者・地質学者の講演を聴き、災害軽減のための社会のあり方について考える。

本当に「想定外」だったのか？



## プログラム

特別講演：大震災が「想定外」に至る分岐点・・・島崎博彦(地質学知識会)  
プレート塊断層巨大地震と海成活断層・・・中田 清(広島大学名誉教授)  
阪神淡路大震災と神戸の活断層を再考する・・・鈴木康弘(名古屋大学)  
活断層地方の活断層の最新情報と防災上の課題・・・岡田真正(中央大学)  
活断層における原子力発電所と活断層の関係・・・遠藤久久(東洋大学)  
総合討論  
オーガナイザー：鈴木康弘(名古屋大学)・宇野 寛(国土地理院)・鈴木康弘(名古屋大学)

2012/10/6/ 土 / 13:00 ~ 16:30

神戸大学 鶴甲第1キャンパス(日本地理学会第一会場 K202)  
〒657-8581 神戸市灘区鶴甲1丁目2-1  
会場へのアクセスは日本地理学会ホームページをご覧ください。 http://www.jgsg.or.jp/

一般公開・参加費無料

主催/協賛：日本地理学会・日本学術会議  
後援/協賛：国土院・日本地球惑星科学連合  
問い合わせ先/日本地理学会災害対応委員会

E-mail: saigai.chiri@gmail.com

公開シンポジウム(1)



日本地理学会 2013年秋季学術大会 公開シンポジウム  
東日本大震災の発災・復旧・復興 --地理学の取り組みと課題--

2013年9月28日(土)～29日(日)  
会場：福島大学L講義棟 L-1教室(第1会場)  
〒960-1296 福島県福島市金谷川1  
大会ウェブサイト  
<http://www.ajg.or.jp/meeting/2013autumn.html>



写真提供 高木 亨氏

9月28日(土) 13:00～16:00

第1部「福島の原子力災害に対する地理学的支援」

主催：日本地理学会・福島大学つくしまふくしま未来支援センター  
オーガナイザ：熊木洋太(専修大)・宇根 寛(国土地理院)・初澤敏生(福島大)・高木 亨(福島大)  
<基調講演>

山川充夫(帝京大・福島大)：東日本大震災・原子力災害を契機とする震災復興の地理学  
<一般講演>

- 中村洋介(福島大)：東北地方太平洋沖地震の概要について
  - 大瀬健嗣(福島大)：福島第一原発事故により沈着した放射性Csの分布と対策
  - 佐藤彰彦(福島大)：原発避難者を取り巻く問題の構造
  - 佐々木達(札幌学院大)：福島県いわき市における農産物の風評被害の実態
  - 高木 亨(福島大)：原子力災害が福島の商工業に与えた影響と地理学的支援
  - 吉田 樹(福島大)：福島県の地域公共交通と災害復興まちづくり
- <総合討論>

9月29日(日) 9:00～12:00

第2部「東日本大震災の災害地理学的検証  
—想定外を繰り返さないために—」

主催：日本地理学会災害対応委員会  
東日本大震災の津波や液状化の発生様式は多様で、いまだ混沌としている。  
災害地理学的な分析から初めて見えてくる真実を整理し、防災上の教訓を考える。

9月29日(日) 13:00～17:00

第3部「仮設住宅から復興公営住宅へ  
—地理学と隣接分野からの提言—」

主催：日本地理学会被災地再建研究グループ  
仮設住宅についての研究成果を踏まえて、生活環境や住民の健康など、今後の「復興公営住宅」のあり方を多角的に議論します。



首都圏の大学生による復興支援(米の販売)  
写真提供 高木 亨氏

**入場無料**

どなたでもご参加頂けます

【お問い合わせ】日本地理学会事務局  
TEL 03-3815-1912 FAX 03-3815-1672  
e-mail office@ajg.or.jp

日本地理学会 2014年春季学術大会 公開シンポジウム  
主催：日本地理学会 災害対応委員会  
レジリエントな国土・地域社会の構築に向けた地理学的課題

2014年3月27日(木)  
13:00～16:30  
会場：国土館大学世田谷キャンパス(第9会場)  
〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1  
大会ウェブサイト  
<http://www.ajg.or.jp/meeting/2014spring.html>



画像提供 苅京 祐氏

<シンポジウム趣旨説明>

小荒井衛・苅京 祐・熊木洋太  
第1部「レジリエントな国土構築における  
地域区分と地理空間情報の役割」

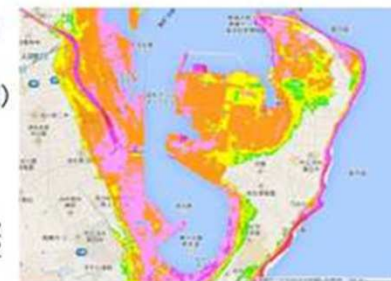
- 座長：小荒井衛(国土地理院)
- <一般講演>
- 苅京 祐(千葉大)：英国における国土のエリアマネージメントの手法  
—国内展開の可能性—
- 上原三知(信州大)：環境指標の総合性と使いやすさ  
—1980年の環境資源目録データとその環境評価プロセスの現代的意義—
- 杉本直也(静岡県)：GISによる防災情報の発信とオープンデータへの取組

<コメント>  
碓井照子(全国GIS技術研究会)

第2部「レジリエントな国土構築における国土計画・地域計画の役割」

- 座長：苅京 祐(千葉大)
- 戸所隆(高崎経済大)：開発哲学の再構築による災害に強い国土構造のあり方  
—首都機能移転と集約型都市構造への転換を中心に—
- 川上征雄(都市未来総合研)：地理空間情報を活用した国土政策の展開

<コメント>  
中林一樹(明治大)・氷見山幸夫(北海道教育大)  
<総合討論>  
座長：熊木洋太(専修大)・小荒井衛(国土地理院)



南海トラフ地震の津波被害想定(静岡県)  
画像提供 杉本直也氏

**入場無料**

どなたでもご参加頂けます

【お問い合わせ】  
日本地理学会事務局  
TEL 03-3815-1912  
FAX 03-3815-1672  
e-mail office@ajg.or.jp

公開シンポジウム(2)

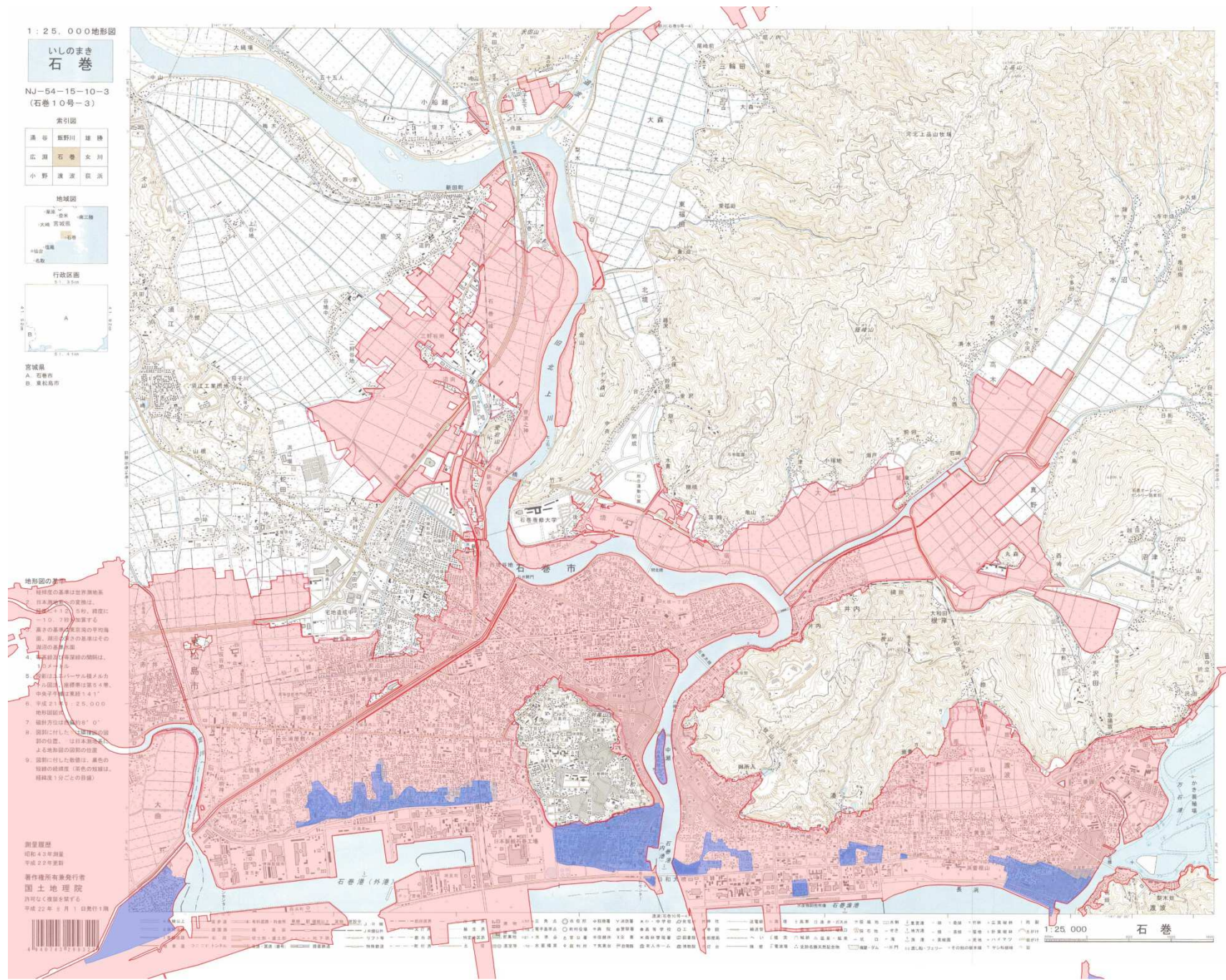
# 日本地理学会 災害対応本部

- 特に規模の大きな災害が発生した場合の対応体制の整備
  - 本部長は理事長であり, 迅速な行動が可能
  - ①マスコミ等への対応
  - ②JpGUはじめ他学協会等との連携
  - ③社会への情報発信
  - 災害種(地震・津波, 火山, 斜面, 水害)ごとの担当者を事前に決めておく
- 経緯
  - 2002年からの懸案, 2011年3月14日の理事会で制度新設が決定される予定だった
  - 2011年3月11日: 災害対応委員会の一部メンバーでマスコミ対応, 災害対応グループMLでの情報交換呼びかけ等の案件を処理, 災害対応本部立ち上げを検討
  - 3月12日: 災害対応本部立ち上げを理事会に要請
  - 3月13日: (仮)災害対応本部立ち上げ, JpGUからの情報提供・共有の依頼に対応
  - 3月14日: 理事会は中止となったが, メール審議により災害対応本部正式発足
  - 3月15日: 災害対応本部専用HP開設



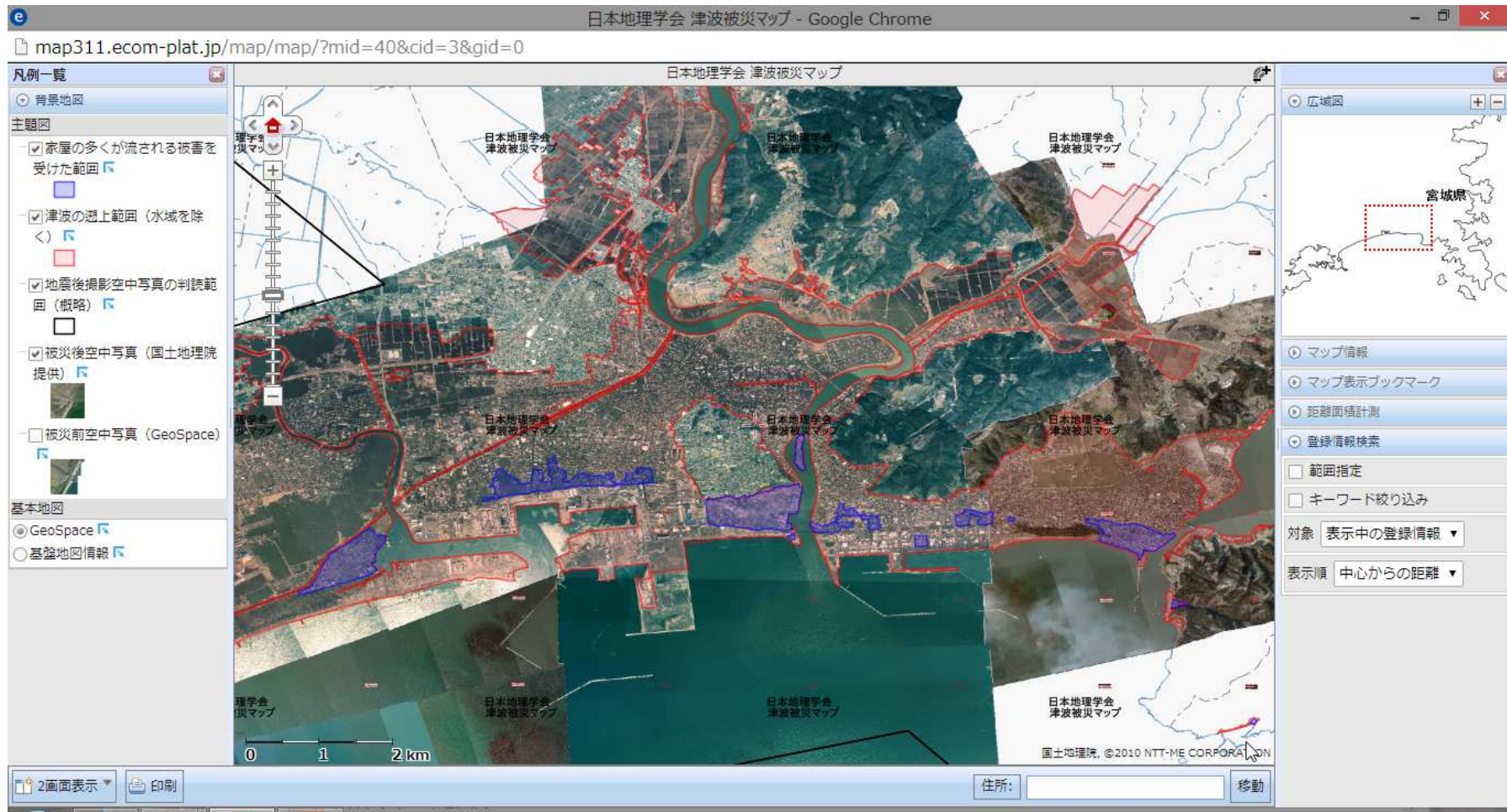
# 災害対応本部の活動

- 専用HP ([http://www.ajg.or.jp/disaster/201103\\_Tohoku-eq.html](http://www.ajg.or.jp/disaster/201103_Tohoku-eq.html)) による情報発信
  - 解説(本部から依頼)
  - 調査速報, 提言(投稿, 本部員が一応チェック)
  - 本部からのお知らせ
- 外部との調整
  - マスコミ
  - 学術コミュニティ(e.g.土木学会海岸工学委員会:現地調査自粛)
- 2.5万分の1津波被災マップ作成
  - 災害対応本部の特別チームによる
  - 国土地理院が被災地の空中写真を公開 →3月17日作業開始
  - 現地調査が困難な状況でできること
  - 地理学はマッピングは得意
  - 第一報は3月28日, 以下順次精度向上のため改訂, GISデータ化



津波被災マップ (<http://danso.env.nagoya-u.ac.jp/20110311/map/574152Ishinomaki3.jpg>)





津波被災マップ GISデータ版(防災科学技術研究所のeコミマップ;  
<http://map311.ecom-plat.jp/map/map/?mid=40&cid=3&gid=0>)



# 学校地理教育への支援

- 地理(社会科)授業再開に際しての教科書・教材整備に向けた緊急提言(4月11日)
- 「東日本大震災地理教育復興支援事業—被災地に地理教材を—」賛助金募集(日本地理教育学会・地理空間学会協;3月28日~6月30日)
- 上記賛助金を事業助成金として総額500万円を申請45校へ(9月下旬)  
(<http://www.ajg.or.jp/ajg/2011/10/500.html>)
- 2012年3月4日 公開シンポジウム 災害と子どもたちの教育を考える—東日本大震災被災学校の現在とこれからの地理学・地理教育



(社)日本地理学会  
協賛学会  
日本地理教育学会  
地理空間学会

## 被災校に地理教材を!

東日本大震災地理教育復興支援事業  
賛助金募集のお願い

詳細については以下をご覧ください  
<http://www.ajg.or.jp>

郵便振替  
振替口座 00140-0-781866  
加入者名(社)日本地理学会

銀行振込  
みずほ銀行 本郷支店  
口座番号 2825963  
口座名(社)日本地理学会

受付期間:平成23年6月30日まで  
問合せ先(社)日本地理学会事務局  
Tel:03-3815-1912  
E-mail:office@ajg.or.jp

# 学協会の災害対応のあり方

- 緊急対応の組織化
  - 迅速に対応できる組織体制を整備しておくこと
  - ある程度マニュアル的に行動できるようにしておくこと
  - マスコミ等の問い合わせに的確に対応できること  
(専門用語を使わなくても説明できる)
- 学協会[連合], 特にその緊急対応組織の役割
  - 現地の事情の把握と情報の共有化, 行動の調整
  - 調査研究への協力が得られるように  
(普段から科学がどのように人に役立つのかを明確に)
- 環境問題の場合
  - 問題意識の共有化